

## 2023 年度第 10 回価格審査会の開催について

2023 年度第 10 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

|      |  |
|------|--|
| 開催日時 | 2024 年 1 月 15 日(月) 13:00~15:00   |
| 場 所  | 本部 6F 大会議室   |
| 委 員  | 松田 寛志 日本工営株式会社 流域水管理事業本部 本部長<br>鈴木 由香 株式会社日本設計 コスト設計部長<br>栞原 圭一 東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長<br>辻 保人 一般財団法人日本建設情報総合センター<br>システム事業部門 コリnz・テクリスセンター長<br>早川 和利 東日本旅客鉄道株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス<br>プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括) |
| 当 会  | 共通資材調査部 部長：大澤 勝、次長：小林 法雅<br>建築調査部 部長：高橋 俊一、次長：島田 理久<br>監査審査室 室長：黒澤 昭浩<br>調査統括部(事務局) 部長：柴尾 治、課長：本間 哲  |

2023 年度第 9 回価格審査会議事録(案) 確認

2023 年度第 10 回価格審査会審議資料説明

| 審議資料の説明  |
|--|
| <p>1. 「建設物価」2月号、「Web 建設物価」2月号の価格動向</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・価格が上伸した資材（工事費）<br/>【Web 建設物価】<br/>レディーミクストコンクリート（今別町（東津軽郡）ほか 22 都市）、道路用砕石類（長井市ほか 16 都市）再生砕石類（館山市ほか 7 都市）、PHCパイプ（水戸市ほか 6 都市）、アスファルト混合物（長野 A 地区（旧長野市）ほか 20 都市）、燃料油（札幌市ほか 40 都市）、鉄スクラップ（青森市ほか 41 都市）ほか。</li><li>・価格が下落した資材（工事費）<br/>【Web 建設物価】<br/>ストレートアスファルト（札幌市ほか 56 都市）、構造用合板—J A S 品—（札幌市ほか 14 都市）、鉄スクラップ（ステンレス）（岐阜市ほか 20 都市）、非鉄スクラップ（札幌市ほか 9 都市）ほか。</li></ul> <p>2. 比較資料</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明</li></ul> |

| 審議事項 | 委員の意見、質問   | 建設物価調査会説明・回答  |
|------|--|---|
| 質問1  | 電線でシェアの大半を占める主要メーカー4社が新規受注停止しているとのことだが、その理由は何か。  | 受注に対して生産が間に合わないためである。   |
| 質問2  | レディーミクストコンクリート・東京17区の市況コメントに「4月から1,000円の値上げを表明し、出荷ベース契約という新たな契約方式を伴う交渉」とある。新たな契約方式での値上げが控えているなか「先行き、横ばい」でよいのか。 | 「先行き」は1～3カ月先の見通しとして使用している。新たな契約方式の導入を含め、値上げ表明の影響が出るのは4月以降とみられるため、先行き気配は「横ばい」としている。  |
| 質問3  | レディーミクストコンクリートの北陸の地区情報で、県庁所在地「新潟」でもなく、最大値上がり都市「村上」でもない「長岡」を選択している理由は何か。  | 地区情報の記載都市は、価格変動がある都市を優先している。同一地区内で価格変動都市が多い場合は、記載都市に偏りが発生しないよう考慮し、トピックスがある都市を優先している。価格変動がない場合は、同一地区内で都市の選定に偏りが生じないようにしている。  |
| 質問4  | 一部の電線ケーブルにおける需給ひっ迫について、予兆はあったのか。   | 2022年12月に一部メーカーで新規受注の一時停止が発表されたが、その後の出荷は通常通り行われていた。しかし、2023年8月末頃から引き合いが急増し、需給がひっ迫したという状況である。  |
| 質問5  | アスファルト混合物について、長野地区と沖縄地区のみが上昇している理由と今後の同資材の市況を伺いたい。   | アスファルト混合物は、昨年に原材料となるストレートアスファルトの価格が値上がりしたことから、製造コストを理由にメーカーが全国的に値上げを行っている。しかし、その後ストレートアスファルトの価格が下落に転ずるなど、原材料市況が乱高下するなか、地場性の強い同資材は、地区内でのメーカー競争環境により値上げ浸透速度にバラツキがみられる。長野・沖縄地区は比較的競争が少ない地区であることからメーカーの売り腰が強まり値上げが浸透した。 |

|       |  |  |
|-------|--|--|
| 質問 6  | <p>コンクリート製品について「原材料や輸送コストの上昇」を理由に価格上伸しているが、セメント市況が横ばいであるなか、なぜ今、当該製品価格が上昇しているのか。</p>  | <p>原材料となるセメント価格や輸送コストの上昇は、全国的に同じような状況であるが、地場性の強い資材であるため価格交渉の進展にバラツキがみられる。セメント価格はこの2年で5,000円/t上伸しており、コスト上昇を背景とする価格転嫁交渉が進展している地区から当該資材の値上げが浸透している。</p>   |
| 質問 7  | <p>令和6年能登半島地震において、石川県や富山県などの被災地区のうち、輪島地区のみをイタリック体数字として掲載している理由はなにか。</p>  | <p>令和6年能登半島地震において多くの工場・プラントが被災した。特に輪島地区は、1月10日時点で工場・プラント稼働状況や製品流通状況の把握が困難であったため、レディーミクストコンクリート、骨材・砕石、アスファルト混合物の掲載価格を暫定的に決定した価格としてイタリック体数字とした。なお、他の地区は稼働状況や製品流通状況の確認が取れているので通常体数字として掲載している。</p> |
| 質問 8  | <p>600Vビニル絶縁電線の市況コメントにある「新規引き合いは高水準で推移しているが、供給不足に起因した高値販売は見られない」とはどういう状況か。</p>   | <p>新規受注停止を受け品薄感が増しているものの、継続的な取引先においては供給不足に起因した大幅な値上げ販売は見られないという状況である。</p>  |
| 質問 9  | <p>一部資材の補足コメントに「原料高や輸送コスト上昇に伴う値上げが浸透」とあり「これらの値上げ要因は全国同様である」と説明コメントがあったが、価格変動が固有の都市だったり全国だったりするのは、どのような違いか。</p>                 | <p>まず固有の都市で値上げが浸透するものは、地場性の強い資材、例えばコンクリート二次製品や骨材、アスファルト等の地区内で需給が完結するような資材に多く見られる。対して、一般資材のように、あるメーカーが全国に供給している製品は、全国同時に価格が変動しやすい傾向にある。</p>   |
| 質問 10 | <p>令和6年能登半島地震に関する建設資材情報に関連して、大規模災害が発生した場合にどの程度のスパンで提供しているのか。また、情報提供する地域は、例えば今回の震災であれば輪島地区など特定の地区となるのか、能登半島周辺地区も含めた地区となるのか。</p> | <p>被災した工場、プラントの稼働状況を中心に適宜、情報を発信している。発災直後は日々状況が変化するため一週間程度で情報更新し、状況が落ち着いてきたら数週間～数ヶ月間の頻度で情報を更新している。また、対象地区については、生コンや骨材、アスファルト混合物といった地域性の高い資材は、それぞれの地区ごとに情報提供している。ブルーシート等の一般資材は、石川県内の情報としている。</p> |
| 審議結果  | <p>「建設物価」2月号、「Web 建設物価」2月号の価格動向に問題はなかった。</p>   |  |

以上